

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

- 1) 勉学、部活動、学校行事の三分野すべてに情熱をもって取り組み、しかる後に自分の希望する進路に到達する心爽やかで逞しい生徒を育てる学校をめざす。
- 2) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

2 中期的目標

〇めざす学校像に向けて、以下の取り組みを行うとともに、絶えず振り返りを行い、ねらいどおりの結果が出ているかという計画・実践・評価・改善の PDCA を機能させて検証していく。概ね3年後を目途に以下のことに取り組み、※の目標を達成させる。

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

- ア 授業において「ほめる・笑う・叱る」を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。
- イ 単元別テストや小テストなどを実施し、学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。
- ウ 自習室の利用率前年度比 10%増の取り組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を 2021 年度に 70%以上とする

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を 2021 年度に 75%以上とする

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

- ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、教員の授業改善の結果、生徒の授業満足度を向上させる。
- イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の縮減を図る必要があるため、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケートを活用して前年度比 10%増

※若手教員技量向上へ(新採3年目まで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む

- ア 挨拶を通して、人間関係の構築のきっかけとさせていく。さらに遅刻数をさらに減らす。
- イ 生徒会活動の活性化、部活動の充実化を図る。
- ウ 国際交流の活性化を図る。
- エ 朝の読書について、知的体験を蓄積できる系統的な学習の場とする。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を 2021 年度に 70%以上とする

※遅刻者数前年度比 10%の減少を図る

※部活動加入率を 2021 年度に 70%以上とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を 2021 年度に 70%以上とする

※海外語学研修を継続し、加わっている各高校の中心としての立場を担っていく

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見 80%以上とする

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく

- ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取り入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす
- イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる
- ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む
- エ 進学講習を組織的に実施する

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全合格数に占める4年制大学合格数を 2021 年度に 60%とする。

※学校斡旋の就職内定率を 100%とする

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を 2021 年度に 80%以上とする

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

- ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任等との面談機会を活用していく。
- イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。
- ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を 2021 年度に 70%以上とする

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を 2021 年度に 70%以上とする

※要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 高石市にある唯一の公立高校として地域の信頼に応えていく

- ア 【学校を外に開く】毎年重ねて交流を求められるよう、自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、地元中学校等との地域交流を継続する。
- イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。
- ウ 【学校を外に開く】高石市合同津波避難訓練との連携を継続し、教職員・生徒ともに津波等に対する危機管理意識の更なる深化をはかる。
- エ 【学校を内に開く】学校説明会などで本校の良さを知ってもらい取り組みを実施する。
- オ 【学校を内に開く】「ご来校(お電話) いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。

※地域交流が活発であったか

※新入生の出身中学への訪問も含め、生徒、教員による中学校訪問合計数を前年度数以上とする

※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数を前年度数以上とする

※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見を前年度以上とする

※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 80%以上を維持する

府立高石高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(授業) 生徒の「授業はわかりやすく、工夫されている」という質問項目での肯定率は81.1%であり、一定わかりやすい授業と言えるが、生徒のICT関連の肯定率は70.2%となっており、ビデオやPCの機器の整備が喫緊の課題といえる。幸い、次年度より全HRクラスにプロジェクター設置の予定であり、これを機に活用法の研修などを実施していく必要がある。</p> <p>(進路指導) 進路指導については、生徒89%、保護者82%の肯定率で高い評価であるが、教職員72.6%と昨年より10ポイントも下がっている。行事日程等により放課後の講習が思うように組めなかったことが要因として挙げられるので、スケジュールを整理し生徒の進路実現のために、より一層推進させていくことが大切である。</p> <p>(部活動) 部活動については教職員78%、生徒86%、保護者88%と高い評価である。</p>	<p>第1回(令和元年7月2日) ○安全面(防犯)対策についてご意見をいただいた。本校では不審者対策の強化として、夏休み明けから教職員は学年色の紐を付けた名札を着用し、外来者には外来者用の名札の着用を徹底すること、また、刺股を新たに購入・配備する予定をお知らせし、安心できる環境整備であるとの評価を得た。 ○入学定数厳格化の流れの影響はあるようだが、大学受験で合格できなかった生徒の進路が気になる。家庭の考え方にもよるが、粘って浪人する生徒が増えてほしいとのご意見をいただいた。 ○遅刻件数が依然と比べるとどんどん減っているのはとても良いことだと思いうのご意見をいただいた。また、遅刻指導週間等の取組みは、生活リズムを作らせるには非常にいい取組みで、なぜこのような取組みをしているのか、という意味合いをしっかりと伝えてあげるとさらに良いのでは、との意見をいただいた。</p> <p>第2回(令和元年9月7日) ○「世界津波の日高校生サミット」に参加する生徒の英語スピーチの発表直前リハーサルを見ていただき、防災減災をテーマとした取組みと発表パフォーマンスについて高い評価と技術的な助言をいただいた。 ○昨年に引き続き文化祭当日の開催であり、生き生きとした生徒活動が見ることができ機会がありがたい、この日の開催は良いというご意見をいただいた。</p> <p>第3回(令和2年2月25日) ○正面玄関奥の各クラブ等の表彰状等を掲示した棚を清掃し、賞状等を新しい時代のものに差し替え、見やすく配列し直したのは、大変良かった。棚の中やガラスもきれいに掃除されて、目を引くようになった。 ○事務室前のモニターで行事の写真をスライドで流すようになったのもよい工夫だ。生徒だけでなく、保護者、来客にも注目してもらえる。生徒の表情がうまく映し出され、よく高石高校の様子がわかってもらえるのではないかと。 ○4年生大学、および主要な大学への合格者が増加している。良かったと思われる要因をしっかりと引き継いで指導していってもらいたい。 ○指導については、大人が決めすぎてもいけないし、ルールをクリアするだけの生徒にはなあってほしくない。自分でどうしていくかを決められる子供に育ててほしい。リーダー研修では、生徒が問題意識を持って、自ら考え、悩みなども共有する良いきっかけになっている。是非、続けるべきであろう。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教員一人ひとりが、 教員相互に高めあう学校	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる</p> <p>(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる</p>	<p>(1) ・家庭や自習室での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すためICT機器等を活用した教材や指導法を研究する。</p> <p>(2) ・授業アンケート結果及び授業見学(教員相互も含む)の中で「褒めあげシート」を活用し、授業改善に取り組む。 ・初任3年目までの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の多い教員に個別指導を行う。</p>	<p>(1) ・自習室の利用者数を前年度数以上。 (平成30年度1530名) ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を73%。 (平成30年度73%) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を75%以上維持。 (平成30年度94%)</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学者を50%以上 (平成30年度47%) ・全教員の延べ授業見学総数を100回以上 (平成30年度142回)</p> <p>・「新三研修」に初任3年目までの教員が全員参加したか。 ・時間外在校時間の多い教員に指導したか</p>	<p>(1) ・自習室の利用者数1825名 ○ ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見81% ◎ ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見88% ○</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学者31% △ ・全教員の延べ授業見学総数78回 △ 課題として授業見学しやすい時期の設定、環境整備が急がれる。 ・「新三研修」に初任3年目までの教員が全員参加した ○ ・時間外在校時間の多い教員に指導した ○</p>

府立高石高等学校

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校	<p>(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む</p> <p>(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくりを行う</p>	<p>(1) ・遅刻者数を減らす。 ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第三次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。</p> <p>(2) ・新学習指導要領に向けて、コースと選択科目の効果的な運用を検討する。 ・学力生活実態調査等の外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。</p> <p>(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p>	<p>(1) ・遅刻者数 2000 名以下 （平成 30 年度 1557 名） ・部活動入部率 70%。 （平成 30 年度 62%） ・海外高校受入れ回数と語学留学者数の増加 （平成 30 年度 海外高校受け入れ 9 名、語学留学 9 名、） ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見を 80% （平成 30 年度 70%）</p> <p>(2) ・新学習指導要領におけるカリキュラムの骨格は作られたか。 ・4 年制大学合格率 50%を維持する。 （平成 30 年度 53%） ・学校幹旋の就職決定率 100%を維持する。 （平成 30 年度 100%） ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見を 80%。 （平成 30 年度 80%）</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%維持する。 （平成 30 年度 75%） ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見を 60%。 （平成 30 年度 59%） ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見を 73%。 （平成 30 年度 70%）</p>	<p>(1) ・遅刻者数 1285 名 ◎ ・部活動入部率 62% △ ・海外高校受入れと語学留学者数の合計 8 名 △ 対外的情報発信や生徒への情報提供と呼びかけの徹底が必要。 ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 80% ○</p> <p>(2) ・新学習指導要領を含めたカリキュラムの検討をした ○ ・4 年制大学合格率 67% ◎ ・学校幹旋の就職決定率 100% ○ ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 89% ◎</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見 59% △ 個々の勤務負担軽減をより促進し、教員が気兼ねなく集まれる環境作りを図る。 ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 57% △ SC との面談を当初から拒む、当初から学校と対決姿勢で相談に臨まれる等、義務教育段階で学校とこじれてきた背景がうかがえる家庭が一定層うかがえる。 ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 76% ○</p>
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	<p>(1) 高石市にある唯一の公立高校として地域の信頼に応えていく</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・部活動や学校行事等を通じて、自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、地元中学校等と交流を図る。 ・高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難も実施。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。</p> <p>【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施する。 ・「ご来校（お電話）いただきありがとうございました」の姿勢を維持する。 ・創立 50 周年に向けて準備をすすめる。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・交流や避難訓練を実施し、活発であったか。 ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。 （平成 30 年度 180 件）</p> <p>【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 700 名を維持する。 （平成 30 年度 767 名） ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見 80%以上を維持する。 （平成 30 年度 89%） ・創立 50 周年に向けて同窓会、後援会との連携を図ったか。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】 ・吹奏楽部だけでなく、フォークソング部も地元での交流を積極的に実施、避難訓練も実施し、活発であった ○ ・外部訪問件数 教職員の学校や塾等の訪問、吹奏楽部やフォークソング部の外部演奏も含め、180 件 ○</p> <p>【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 769 名 ○ ・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」（＝「高石高校に入学させてよかった」肯定的意見 89% ○ ・創立 50 周年に向けての予算準備を実施 ○</p>